介護離職ゼロ

を目指す

山梨県の挑戦

ケアラー
支援施策検証
パンフレット



YAMANASHI

施策にかける思い

トリプルケアラーは壮絶な経験でした

当事者だった知事が挑む「介護離職ゼロ」への道

ケアラー支援で、
山梨県は国の一歩も二歩も先を行く。
その原動力は、「自分もいつか当事者になる」という
県庁職員一人ひとりの実感と、
知事自身がトリプルケアラーとして
瀬戸際に立たされた原体験だった。
長崎幸太郎知事が語る。



介護は、ある日突然やってきます。でも、そうなるまでは、誰も自分のこととしてイメージしない。何を隠そう、私自身がそうでした。

2023年のクリスマスの日、一人暮らしの母を訪ねると、ベッドの脇に倒れていました。入退院が3カ月続きました。同じころ、子どもも多感な時期を迎えた。そんな中、妻が倒れ、入院しました。仕事を続けられないほど追い込まれ、**私自身が介護離職の瀬戸際だったんです。**

妻は奇跡的に回復しました。でも、これはたまたま運がよかっただけ。支えてくれる人が一人でも欠けていたら、乗り越えられなかった。ある日突然ケアラーになり、パニックに陥る。待っているのは絶望です。

絶望の淵に追い込まれそうな人に、クモの糸のような道筋を示すべきです。困っている人を放置していいはずがない。道筋を示すのが政治の仕事です。

県庁で「介護をしている家族を支える体

[山梨県 ケアラー支援

STEP.1

気づく

ケアラーと自覚し
すべてを抱えこまない

課題

ひとりまたは家族でケアを
負担し周囲から孤立

困っている人がいるのに、放置していいはずがない。道筋を示すのが、政治の仕事です

制をつくろう」と話すと、部局長も課長もみんながうなずいてくれました。職場では言わないだけで、水面下では鳥の水かきのように必死なんです。誰もが当事者だったんです。

当事者に話を聞いて、多くの人が自分がケアラーだと気づいていないことが分かりました。まず、自分の状況に気づき、支援は頼っていいと意識を変える必要がある。支援策があっても相談先が分からないなら、その壁を破る。そして、支えている人自身を支えていかないといけない。その思いでまとめたのが、「ケアラー支援推進パッケージ」です。

支援対象には、介護保険の枠外の不登校の子を抱える家庭も入れました。親の介護も、子どものことも、同じ家族の悩みです。

思いを込めて始めたコンシェルジュ

考え方の幹は、「ケアラーはプレーヤーではなく、マネージャーになればいい」ということ。必要なサービスを選んで組み合わせる。ただ、選べる幅が乏しく、探すのも大変。**一人で抱えるのは無理だから、秘書役が必要です。**そこで、2026年9月にケアラーコンシェルジュを始めました。

今後力を入れたいのは、選べる幅を広げること。今の介護施設は病室のようになりがちです。暮らしに近い居室など多様な受け皿を整え、不登校の子にも学びの場を用意したい。そうすれば、ケアラーは自分の家族に合うものを見つけやすくなります。

介護休業は、介護に専念するための休みではなく、介護の体制を整えるための期間です。国も企業も、認識を変えていかなければなりません。

今後支援策を考えるうえで大事なのは、施策を受け取る側に立って考えること。この人が介護離職をせずにすむにはどうすべきか。それだけです。でもその「それだけ」が、とても難しい。それでも、現場から一つずつ拾い、支え続けていく。それが、行政の仕事だと考えています。

推 進 パ ッ ケ ー ジ ］

STEP.2

つなぐ

公的サービスへの接続強化

課 題

必要な支援との未接続

STEP.3

支える

公的サービスのさらなる充実

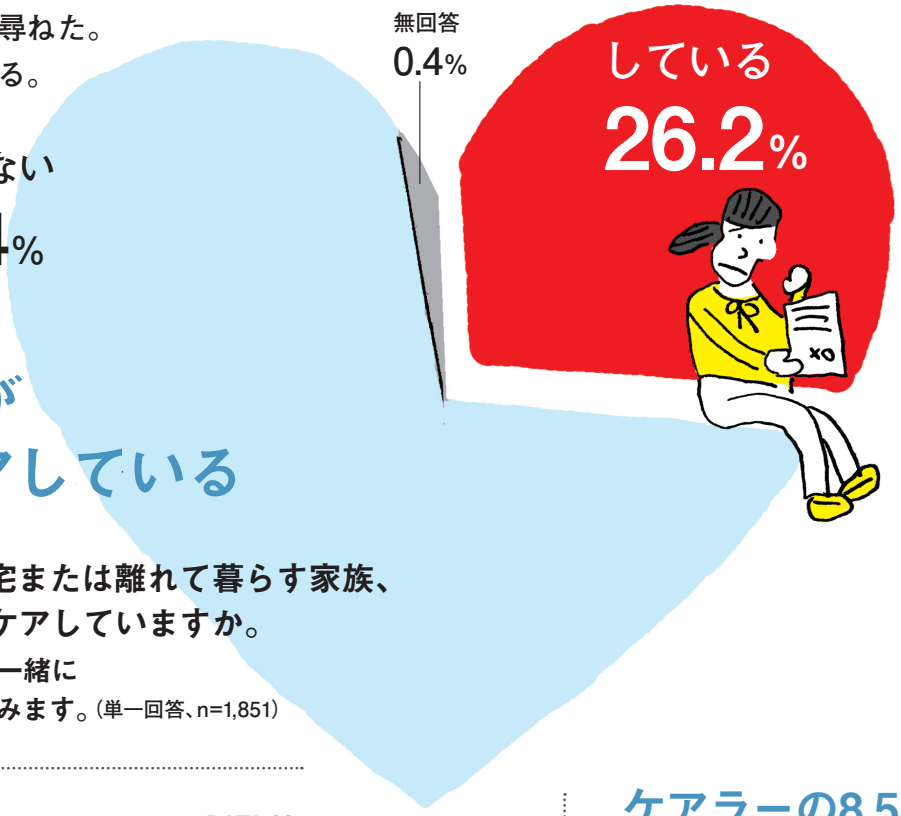
課 題

負担増による心身の不調

データでわかる、ケアラーの現実

ケアラーは、想像よりずっと近くにいる。
多くの人が、ひとりで静かに無理を重ねている。

山梨県は2025年、県民4,000人と支援機関、
企業にケアの実態を尋ねた。
数字から現実をたどる。



4人に1人が誰かをケアしている

DATA.01

あなたは現在、自宅または離れて暮らす家族、親族、知人などをケアしていますか。

あなたの家族・親族と一緒にケアしている場合も含みます。（単一回答、n=1,851）

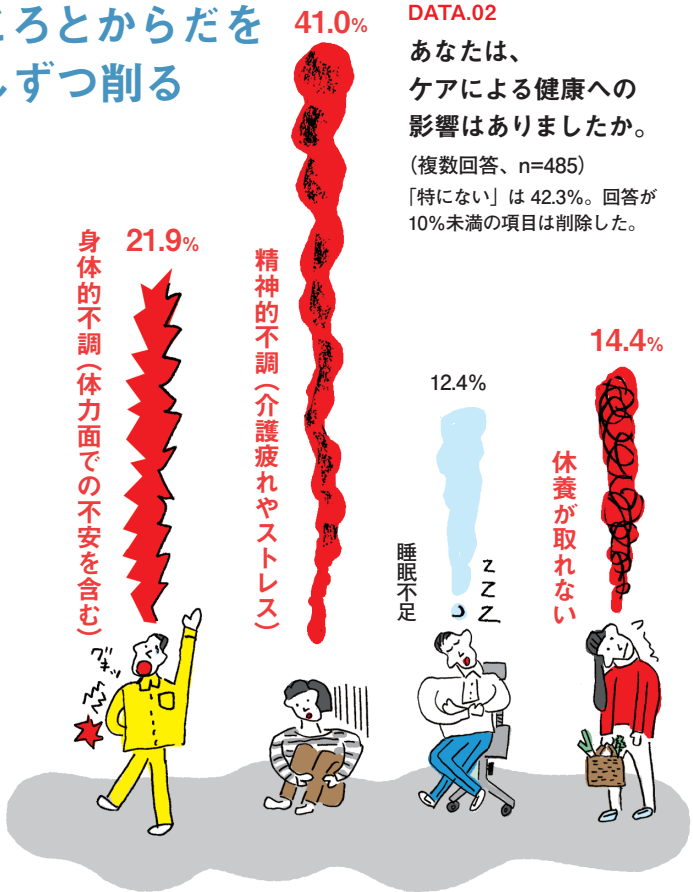
こころとからだを少しずつ削る

DATA.02

あなたは、ケアによる健康への影響はありましたか。

（複数回答、n=485）

「特にない」は 42.3%。回答が10%未満の項目は削除した。

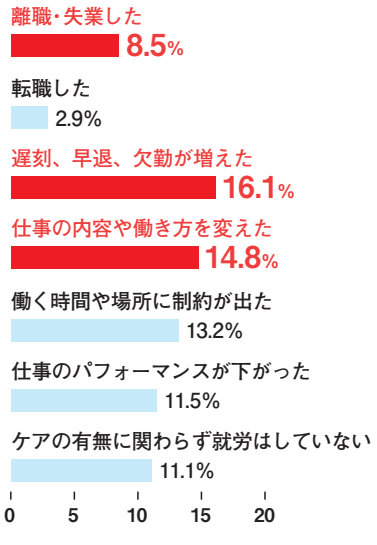


ケアラーの8.5%が仕事を手放している

DATA.03

あなたはケアを始めたことで、仕事に影響はありましたか。

（複数回答、n=485）



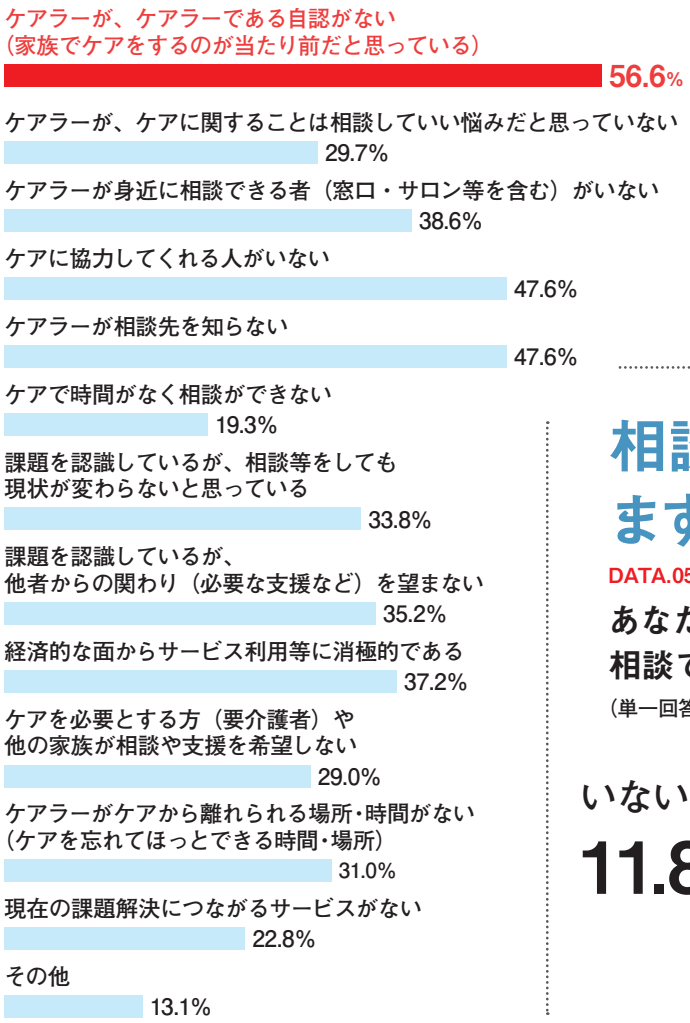
「特に影響はなかった」は 32.6%。

「自分がケアラー」と気づいていない

DATA.04

ケアラーが抱える悩みや課題が解決しない要因は何だと思いますか。

（複数回答、n=145）



県ケアラー実態調査

・県民調査
［調査期間］2025年1月10日～2025年2月4日［調査対象］県民4,000人（無作為抽出・18歳～80歳）［回答数］1,851件（回答率46.3%）※上記の他、調査期間中に支援機関を利用した者にも同内容の調査を実施（回答数:273件）

・支援機関調査
［調査期間］2025年1月10日～2025年1月31日［調査対象］県内500支援機関（市町村福祉、介護、障害、自立支援、こども分野等）［回答数］145件（回答率29.0%）

・企業調査
［調査期間］2025年1月10日～2025年1月31日［調査対象］県内に事業所を有する2,300社［回答数］494件（回答率21.5%）

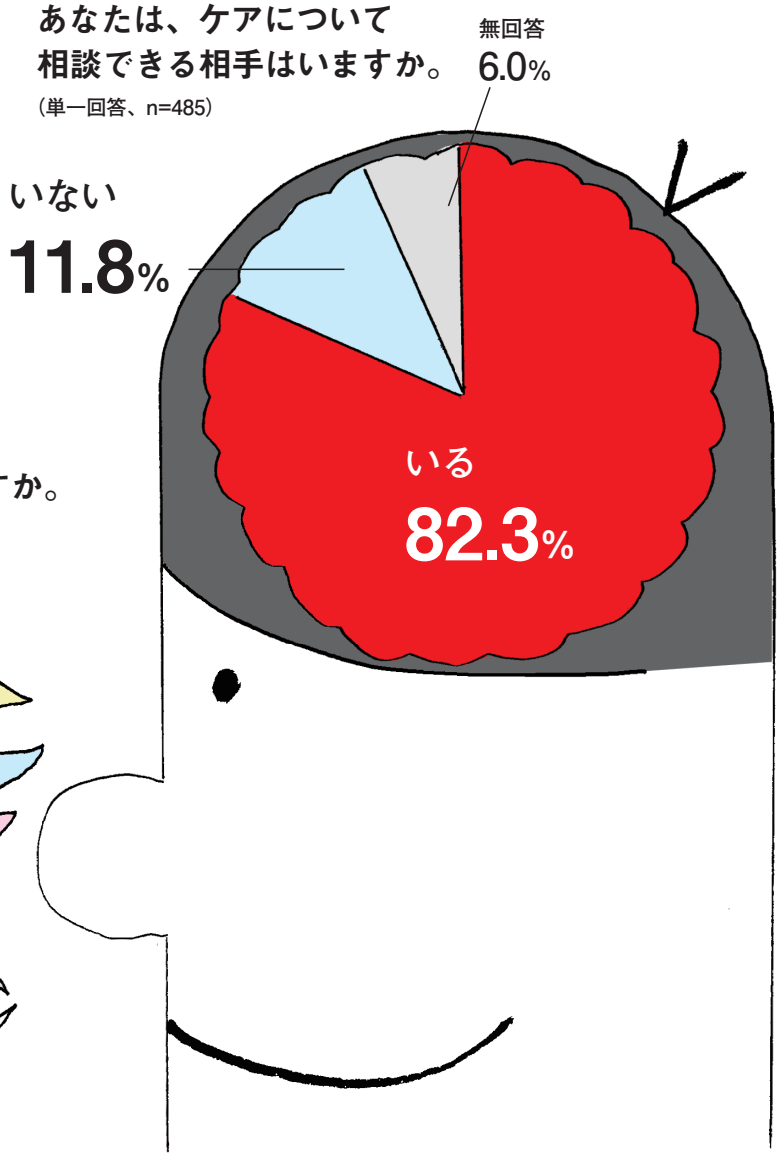


相談相手はまず家族

DATA.05

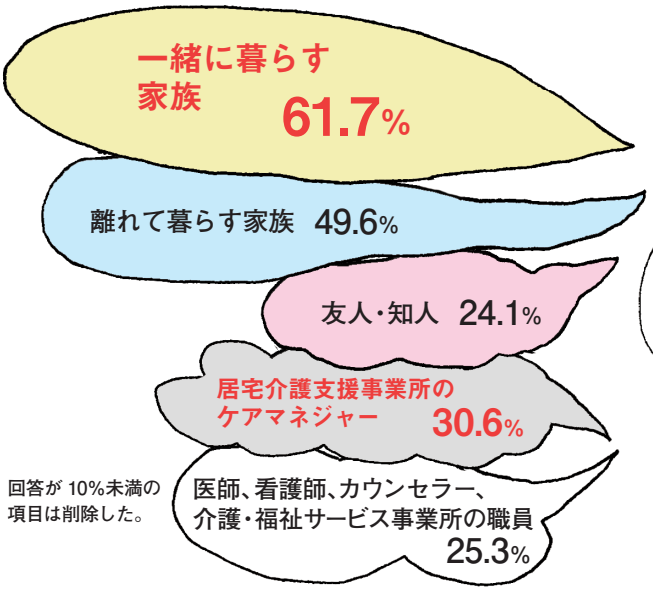
あなたは、ケアについて相談できる相手はいますか。

（単一回答、n=485）



相談できる相手は誰ですか。

（複数回答、n=399）



回答が 10%未満の項目は削除した。

ケアラーの孤立を解消

STEP.1

気づく

ケアの悩みは、家族の中で静かに抱え込まれ、周囲からは見えにくい。「自分がケアラーだ」という自覚がないことも多い。県は実態をつかみ、「気づいてもらう」ための挑戦を始めた。

県民への啓発・認知度向上

- 対面での支援情報の普及・啓発（推進員）
- ポータルサイトによる情報一元化と普及
- 多様な広報媒体を最大限に活用した啓発
- ヤングケアラーに対する理解促進

企業への啓発・認知度向上

- セミナーワークライフ＆ケアバランスの実現を支援するセミナーの開催
- ワークサポートケアマネジャーの養成
- ワークサポートケアマネジャーが実施する企業向けサービスの啓発

その他の対応

- 県・市町村職員への介護支援制度の普及・啓発



「助けて」と言わない人に支援を

東京大学大学院からの政策提案を実現へ

山梨県内でフィールドワークに臨む東京大学公共政策大学院の学生に、あるケアラーの女性はこう語った。「私は恵まれた環境で、親の介護を頑張れているんです。ご近所さんからも『偉いね』と声をかけられます」。前向きな言葉に、学生たちは違和感を覚えた。この気づきが、一つの政策を動かす出発点になる。

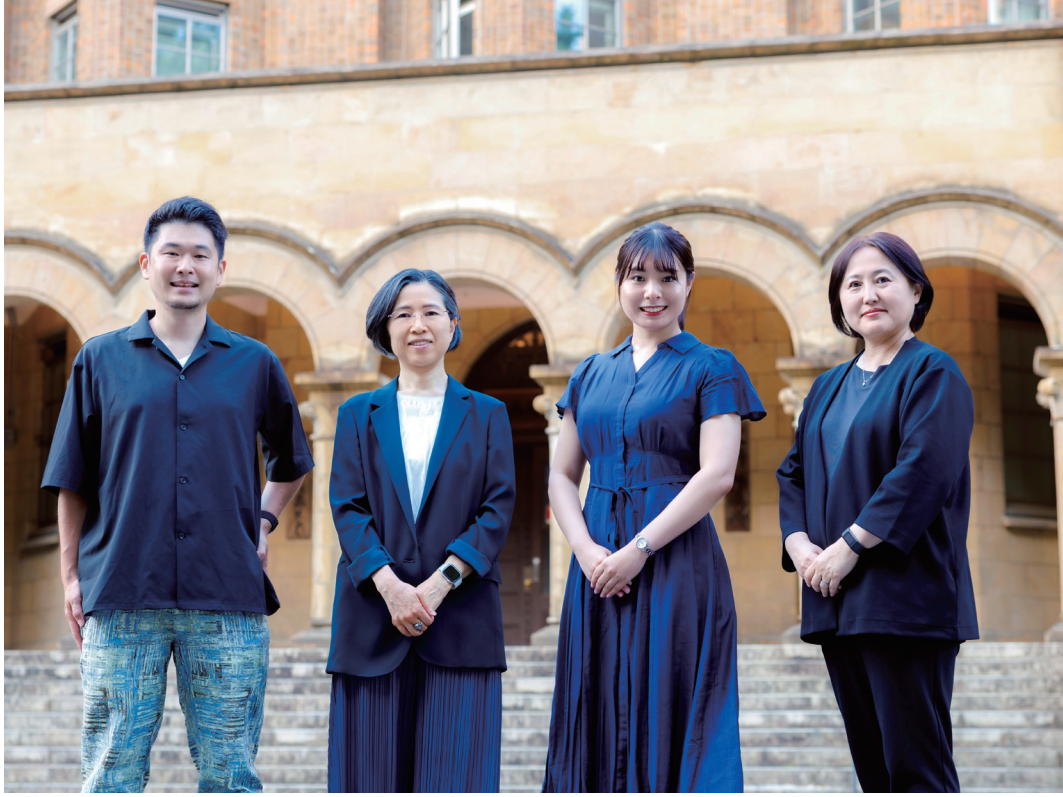
大学院の講義「公共政策のデザイン」は、大勢の平均ではなく、個人の具体的な声を徹底して拾い上げる。指導する宗像直子特任教授は言う。「統計や数字を眺めるだけでは、本当に使える政策にはなりません」。

自ら助けを求めない人にどう届けるか。

学生が祖母の言葉を思い出して着目したのは、暮らしの動線にある「理美容室」だっ



「よそには漏らせないけれど、〝近しい他人〟だからこそ出てくる愚痴があるんだよ」
（学生の祖母の言葉）



左から橋本直樹非常勤講師、宗像直子特任教授、提案チームの受講生

た。県内に約3,580店、コンビニの約6倍。髪を切りながら鏡越しに交わす会話には、本音を引き出す可能性がある。同じ客が定期的に通うため、変化にも気づきやすい。

そこで学生たちは、理美容師を「ケアラーサポーター」に認定してはどうかと県に提案した。専門的な相談は専門機関に委ね、日常会話のなかで「一人で抱え込まず、プロに相談してみませんか」と促す“つなぎ役”になる。**行政の窓口が開くのを待つのではなく、暮らしの中から支援の入り口を生み出す構想だ。**

TOPICS

部局の壁を越えた推進本部を設置

2024年7月、部局の垣根を越えて「ケアラー支援推進本部」が発足した。県庁職員の4人に1人が現役ケアラーで、その2割がダブルケアラーという調査結果が動きを加速させ、支援策を立案するエンジンとなった。「まるで各課で温めていたアイデアが一気にあふれ出た感じでした」と県職員は振り返る。

117項目を人の手で束ねたポータルサイト

ケアラーに対する支援情報を1カ所に集めるポータルサイトが2025年4月1日にオープンした。分散していた117項目×27市町村の情報を人の手で整理した。2026年3月からは生成AIも搭載され、ケアラーの不安を解消するシステムに増強された。

実態調査に対し、支援機関の56.6%が、ケアラーの課題が解決しない要因に、「本人にケアラーだという自覚がない」ことを挙げ、最も多かった。県は「ケアラーを探しにいく」施策を始めようとしている。

必要な人へ
的確な支援を

STEP. 2

つなぐ

支援の制度をつくっても、
必要とする人に情報が届かない。
知っても、自分からは動きだしにくい。
県は「相談してみよう」と思えるきっかけをつくり、
当事者の声を政策に接続していった。

接続促進・人材養成

- 当事者の声を拾い、支援へつなぐ
  ポッドキャスト配信
- ポータルサイトに生成 AI を搭載
- 不登校児童や家庭に支援をつなぐ
  スクールソーシャルワーカーの
  配置と増員に向けた研修の実施
- ヤングケアラー・コーディネーターの
  養成等

相談窓口の設置

- 専門職（介護支援専門員、
  保健師等）による土日祝電話相談
- 妊産婦・子育て家庭の
  育児不安相談窓口の設置

その他の対応

- 認知症の人とその家族を支援する
  連携体制構築



「気づかない人」にこそ届けたい

行政発の異色ポッドキャスト

聞こえてくるのは、パーソナリティの軽快な進行と、ゲストの赤裸々な体験談。だが提供元は「山梨県」、話題はヤングケアラーや在宅介護といった深刻な社会課題だ。2025年9月、行政発では全国的にも珍しいポッドキャスト『やまなし♥つながる時間』の配信が始まった。

きっかけは、実態調査で見えた「自分では気づかないまま介護や世話をしている人」の多さだった。匿名性が高く、一人で聴ける音声メディアなら、悩みを抱える人



ポッドキャストづくりに携わった働く人・働き方支援課の木村優斗（左）、総合県民企画室の雨宮悠太（右）



遠距離介護の移動中にたまたま聴いて、毎回楽しみにしています（リスナー）

に届く予感があった。担当した県職員は、**堅苦しくなりがちな行政番組にエンタメ性を持ち込んだ**。当初は「重いテーマにやりすぎでは」との懸念もあったが、「まずは聴いてもらえなければ意味がない」と説得を重ねた。

再生回数は開始約1年で4万6000回を超えた。リスナーからは励ましの声が届くように。音声広告のクリック率は、一般的に0.5%とされるなか8～12%を記録した。

耳元にそっと届く声が、支援への入り口になる。

TOPICS

「誰がどう困っているのか」から問い直す政策デザイン

「ヘルプマーク」を手がけたデザイナー・永井一史さんが、県のケアラー事業に加わった。永井さんは「より良くすることが、デザイン」と言い、「誰がどう困っているのか」と問いかけた。これをきっかけに、県は数字のデータのみで正解を導く進め方をやめ、当事者へのヒアリングを重ねて施策の芯を組み替えていった。

不登校の家庭も「ケアラー」として支える

県は、介護保険の枠外だった不登校家庭もケアラー支援の対象に据えた。約6万1000人の子どもたちの親を対象にした異例の大規模調査では、子どものケアに追われ孤立する保護者の姿が浮かび上がった。この調査結果を受け、専門職のスクールソーシャルワーカー（SSW）を2025年度の15人から27人へ増員。SSWが学校へ訪問することも始めた。

実態調査に対し、支援機関の47.6%が、支援が届かない要因に「ケアラーが相談先を知らない」ことを挙げた。県民調査でも、相談相手として最も多いのは「一緒に暮らす家族」（61.7%）だった。県は、必要な人の手元へ的確な支援を届けるすべを探し続けている。

ケアラーの負担を減らし、心身を守る

STEP. 3

支える

**ケアの負担が重なると、心身は消耗し、
やがて仕事や収入まで失われかねない。
孤立と困窮が絡み合えば、
負の連鎖に陥ってしまう。
県は本音を語れる場をつくり、
知事自身も当事者と向き合って、
その声を受け止めた。**

伴走支援体制

- 「ケアラーコンシェルジュサービス」の構築

職場環境の整備

- ワークサポートケアマネジャー、社会保険労務士などの派遣

支援機関の連携強化

- 事例検討会による職員等のスキルアップと支援機関の連携促進

負担軽減策

- ユニバーサルツーリズムの推進
- 難病児・家族の療養環境向上に向けたレスパイト施設の活動支援等

その他の対応

- 悩みの共有や情報交換等を行う機会の提供
- 認知症の人、障害者、がん患者、難病等の家族支援体制整備
- ひとり親家庭の緊急時における支援体制整備
- 企業の就業規則、働きやすい職場環境整備支援

当事者の声が、県を動かす

知事と語り合う「もう一つの車輪」

山梨県のケアラー支援施策は、4,000人規模の実態調査という「数字」と、知事が当事者と直接語り合う「知事と語る やまなしづくり」という「声」の両輪で立案された。

知事との対話は、2025年1月から翌年2月まで計6回開かれた。不登校、ビジネスケアラー、ダブルケアラー、ひとり親……。対話の中でたびたび、「制度はあるが、届いていない」という声が上がった。すると、知事は思わず、「やってる、やってるって言っても、伝わってなきゃ意味ないです」と言った。

そして、県はすぐに動いた。制度を一から組み立て、予算決定のギリギリまで政策を練り込んでいった。

行政で固まりかけていたものを、当事者の言葉が動かす。仕事と介護の両立を支援するハンドブックも、コンシェルジュ構想も、ポータルサイトへの生成AI導入も、この対話を受けて生まれた。



TOPICS

「いい家族」を演じなくていい場所——ケアラー交流会



対話の第3回「ダブルケアラー」で上がった「同じ境遇の人と話したい」という願いが、初のケアラー交流会（2026年1月）として実を結んだ。進行役が自身の失敗談を語りだすと、参加者も口を開き始めた。「認知症の家族についつい怒ってしまう」という打ち明けに対し、「私も同じです」「こっちも人間ですから」と、否定的な声は返ってこなかった。

介護休業に対して企業は冷たい？

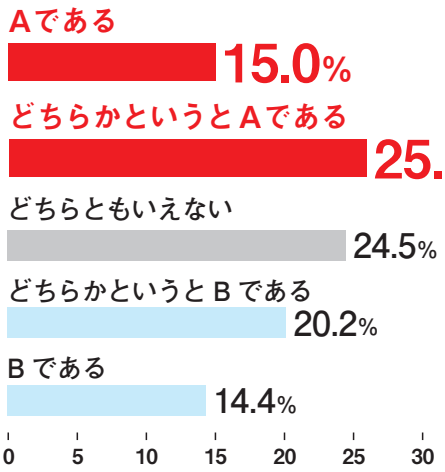
企業に対する調査では、介護休業を「仕事を続けるための準備期間だ」と前向きにとらえる割合は全体の4割だった。

介護休業は

A 仕事を続けながら介護体制をつくる期間だ

B 介護に専念するための期間だ

（単一回答、n=494）





やってる、やってるって
言っても、伝わってなきゃ意味ないです
（長崎幸太郎知事）



実態調査では、ケアラーの4割が
精神的な不調を訴えている。
それでも、サービスを
使わない理由の筆頭は
「本人や家族が望まない」だった。
「家族が看るのが当たり前」という
思いをどうほどくか。
支えを届ける挑戦は、
まだ始まったばかりだ。

ケアラーコンシェルジュ

電話一本で、あとは丁寧に差配してくれる全国初の「ケアラーの秘書」

夕方、親が倒れた。病院に付き添いたいが、子どもの夕飯、明日の保育園の送迎、そして仕事は……。どこに相談したらいいか、見当もつかない――。そんな「パニック」になったケアラーを支える窓口を、山梨県が全国に先駆けてつくった。

「ケアマネジャーを軸にしてみたらどうかな」――根津社長の一言が、構想の核になった

きっかけは、2025年1月に知事が「ケアラーの秘書（コンシェルジュ）のような存在をつくれないか」と指示したことだった。他の自治体に前例はなく、施策づくりはゼロから出発した。**構想から1年8カ月、100回を超える打ち合わせ**を重ねて施策が出来上がった。

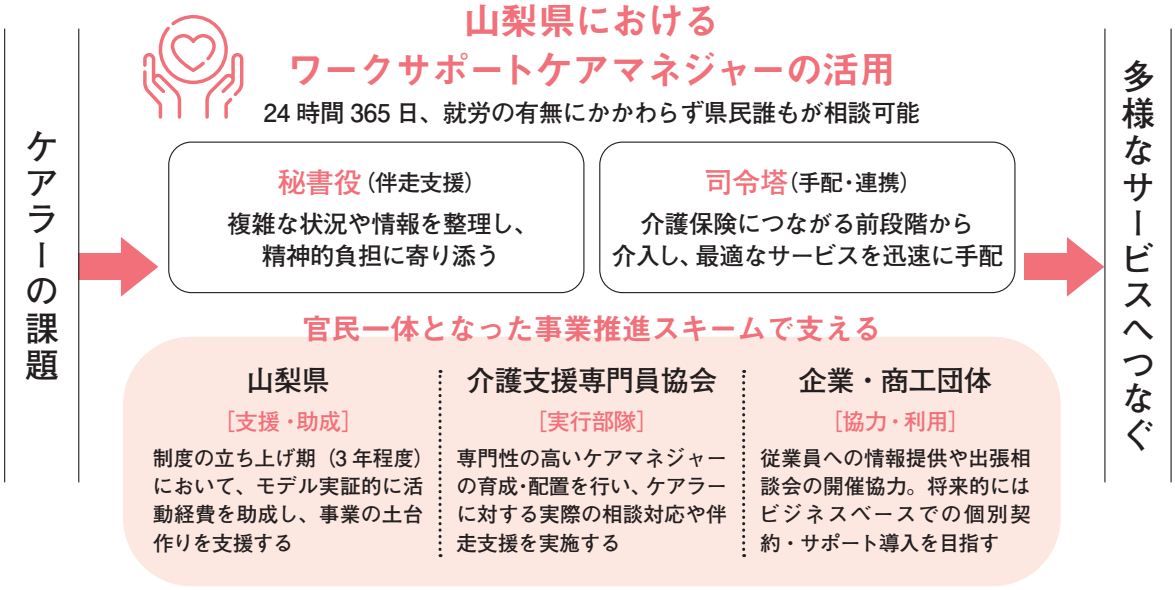
在宅介護サービスを手がける「やさしい手甲府」の根津宏次社長との2時間を超える対話が、ヒントになった。それが「ケアマネジャーを軸にする」こと。

ケアマネージャーは利用者に必要なサービスを手配する介護のスペシャリストで、地域包括支援センターなど現場のあらゆる関係者とつながっている。

ケアラーは困りごとが生じたら、電話するだけ。電話口に出たワークサポートケアマネジャーが最適なサービスを案内したり、迅速に手配したりする。企業の従業員に対しては、状況や情報を整理し、介護前の段階から精神的な負担にも寄り添っていく。

地域包括支援センターが休みの**週末でも、夜間でも、無料**で相談できる。

県は、運営を担う県介護支援専門員協会に補助金を出すことで、「福祉はタダにしない」持続の仕組みも整えた。

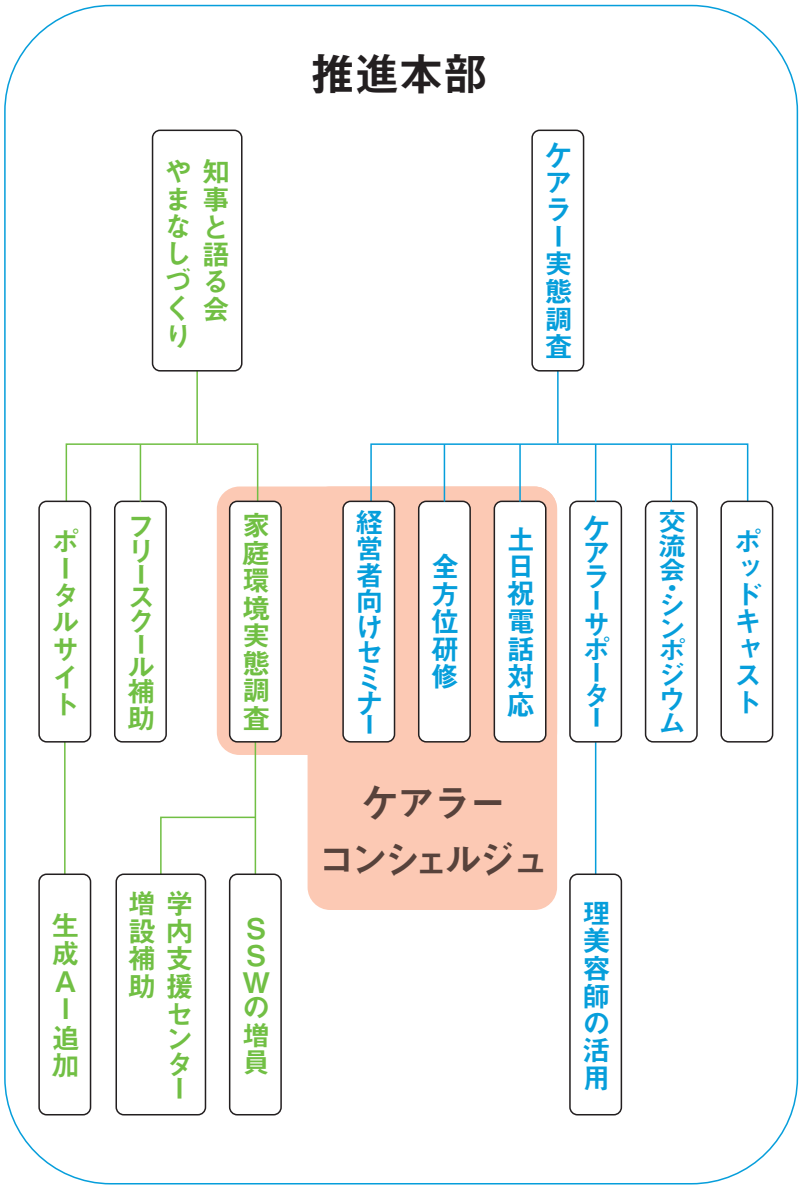


2026年9月1日スタート。24時間365日、就労の有無、ケアの段階にかかわらず、いつでも無料で相談可能。※連絡先は P16

Materials

山梨県 ケアラー支援政策立案の軌跡

2024年夏、エンジンとなる推進本部ができた。
ケアラーがプレイヤーではなく、
マネージャーになってほしい。その思いを込めて、
2026年9月にケアラーコンシェルジュが始まった。



「ケアラー実態調査」で見えた定量データと、知事が直接当事者の声を聞く会（「知事と語る やまなしづくり」）から得られた定性データが両輪となり、山梨県のケアラー支援施策として融合されていった。対応を続ける中で、多くの課題に対処する「ケアラーコンシェルジュ」構想が生まれ、2026年9月に始まった

［第1期］
起点

2024.7
ケアラー支援推進本部 発足

2024.8
ビジネスケアラーセミナー

［第2期］
声を聞く

2025.1〜
知事と語るやまなしづくり（計6回）

［第3期］
土台を敷く

2025.4
ポータルサイト開設

2025.4
実態調査 結果公表／国への提案・要望

［第4期］
枝が広がる

2025.9
土日祝の電話相談／ポッドキャスト配信

2025.10〜11
ケアラーサポーター養成

2025.11
経営者・管理職セミナー

2025.12
ケアラーシンポジウム

［第5期］
深める・つなぎ直す

2026.1
家庭環境実態調査 結果公表／ケアラー交流会

2026.3
ポータルサイトに生成AI搭載

2026.9
ケアラーコンシェルジュ 開始

Evaluation

先進県・山梨が目指すべき「一歩先」

山梨県のケアラー支援策を、どう評価するのか。
現状の評価に加え、その一歩先への注文が、二人の識者から聞こえてきた。

「気づく・つなぐ・支える」を超えて

紀伊信之 株式会社日本総合研究所
リサーチ・コンサルティング部門　部長／プリンシパル

これだけの施策が一つのパッケージとして並んでいる自治体は多くありません。評価したい点は、大きく二つあります。

一つは、「気づく・つなぐ・支える」という三層の構えです。社会全体への啓発にとどまらず、相談に乗れる担い手であるワークサポートケアマネジャーの育成もしている。**啓発の先を行く点が効いています**。



もうひとつは、全庁横断で施策を担っていること。ケアラーの問題は、一つの部署ではカバーできません。山梨県は知事の号令で推進本部をつくった。それくらいの覚悟がないと、包括的な取り組みにはならないんです。

今後の課題は中堅・中小企業です。大企業でも介護支援の優先度が高いとは言えず、中小はさらにその傾向が強い。だからこそ、**啓発と支える仕組みの両方を持つ山梨の方向性は正しい**と思います。

そのうえで期待したいのが、ケアラー支援推進パッケージの検証です。「介護離職は減ったか」「ワークサポートケアマネジャーの派遣件数は増えたか」といった、施策ごとに見るべき指標を置いて、ときどき全体を振り返る。そうやってPDCAを回していくことで、支援パッケージが実効的なものに発展していくでしょう。

ときどき全体を振り返ることで支援パッケージが実効的なものへ発展する

KII NOBUYUKI
京都大学経済学部卒業。2018 年 4 月より現職。在職中、神戸大学で MBA 取得。民間企業向けの新規事業開発等のコンサルティングを経て、高齢者・介護分野の官民の調査・コンサルティングに従事。内閣府規制改革推進会議「健康・医療・介護ワーキング」専門委員、介護関連サービス事業協会理事などを務める

個人が動き、社会が変わるまで

宗像直子 東京大学公共政策大学院 特任教授

政策は「つくって終わり」ではなく、「個人が行動を変え、社会が変わる」ことで初めて意味を持ちます。効果の高い政策には、三つのポイントがあると思っています。

一つ目は、マクロなデータで課題の広がりをつかむことと、一人ひとりの生活実感に深く向き合うことを、絶えず往復すること。**本質的な課題は、たいてい一人の人間の生の声の中に眠っている**んです。県が実態調査で全体像を押さえる一方、知事との直接対話で当事者の声を受け止めて施策を動かしてきたことは、まさにこの往復だと思います。

二つ目は、安易な落とし所から逆算しないこと。役所の現場は日々の業務に追われ、「解決策はこんなものだろう」という結論に落ち着きやすくなります。しかし、現実を高い解像度で捉え続ける粘り強さこそが、政策の精度を高めます。山梨県のケアラーコンシェルジュも100回を超える打ち合わせを経て形になりました。

そして三つ目が、受け手や現場に無理をさせない「実装（出口）のデザイン」です。

理美容室をケアラー支援の入り口にするという学生たちの提案は、理美容師の方々が普段の仕事の延長で担えるものです。まさにその好例だと思います。

効果が出ているかを検証しながら、**無理なく広げていく粘り強さが欠かせません**。

繰り返しになりますが、政策は「つくって終わり」ではありません。動きだして浮かび上がる課題もあるでしょう。「うまくいかなかったらすぐ軌道修正すればいい」という知事の言葉は、前例のない取り組みに挑む職員の皆さんにとって、大きな後押しになったのではないでしょうか。

現場から課題を拾い、調整を重ねる。その積み重ねが、真に「効果の高い政策」へとつながっていくはずです。

受け手や現場に無理をさせない「実装（出口）のデザイン」が鍵になる



MUNAKATA NAOKO

1984 年に通商産業省（現・経済産業省）へ入省。貿易経済協力局長、内閣総理大臣秘書官などを経て、2017 年に特許庁長官。在任中の 2018 年 5 月、企業経営に顧客視点を採り入れる「デザイン経営」宣言を取りまとめた。2019 年に退官し、2026 年から現職

「介護離職ゼロ」を目指し、山梨県の挑戦は、これからも続く。

［支援がほしいときの連絡先］

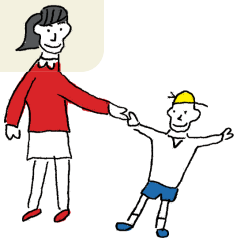
山梨県ケアラー電話相談
（土日祝・年末年始9:00～21:00／無料）
055-223-1452

やまなしケアラー支援ポータルサイト
https://www.carer.pref.yamanashi.jp/

ケアラーコンシェルジュサービス
（24時間 365日対応／無料）
055-213-1102

県HP
https://www.pref.yamanashi.jp/hataraku/carer_concierge.html

山梨県 総合県民支援局 総合県民企画室
055-223-1339



コミック「突然ケアラーになったら」は裏表紙からお読みください。

検証冊子本編は
こちらから

介護離職ゼロを目指す山梨県の挑戦
ケアラー支援施策検証パンフレット

2026年11月発行

発行　山梨県 高度政策推進局
高度政策企画イニシアチブ
〒400-8501
山梨県甲府市丸の内一丁目6番1号
TEL 055-223-1842
E-mail koudo@pref.yamanashi.lg.jp

取材／編集　株式会社テックベンチャー総研
デザイン　フロッグキングスタジオ
取材協力　中村麻衣子、内藤瑠那
撮影協力　今村拓馬、山本倫子

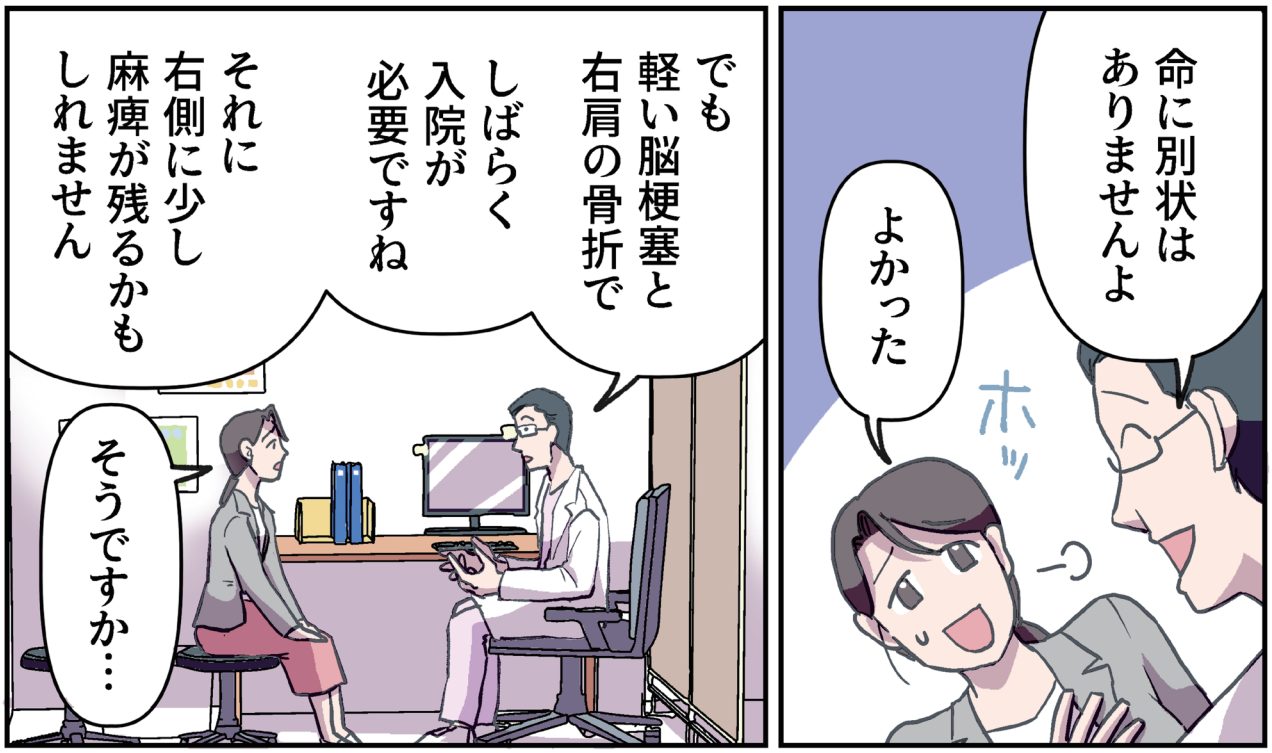
本書のコピー、スキャン、デジタル化などの無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。ご利用の際は、山梨県高度政策企画イニシアチブまでご相談ください。

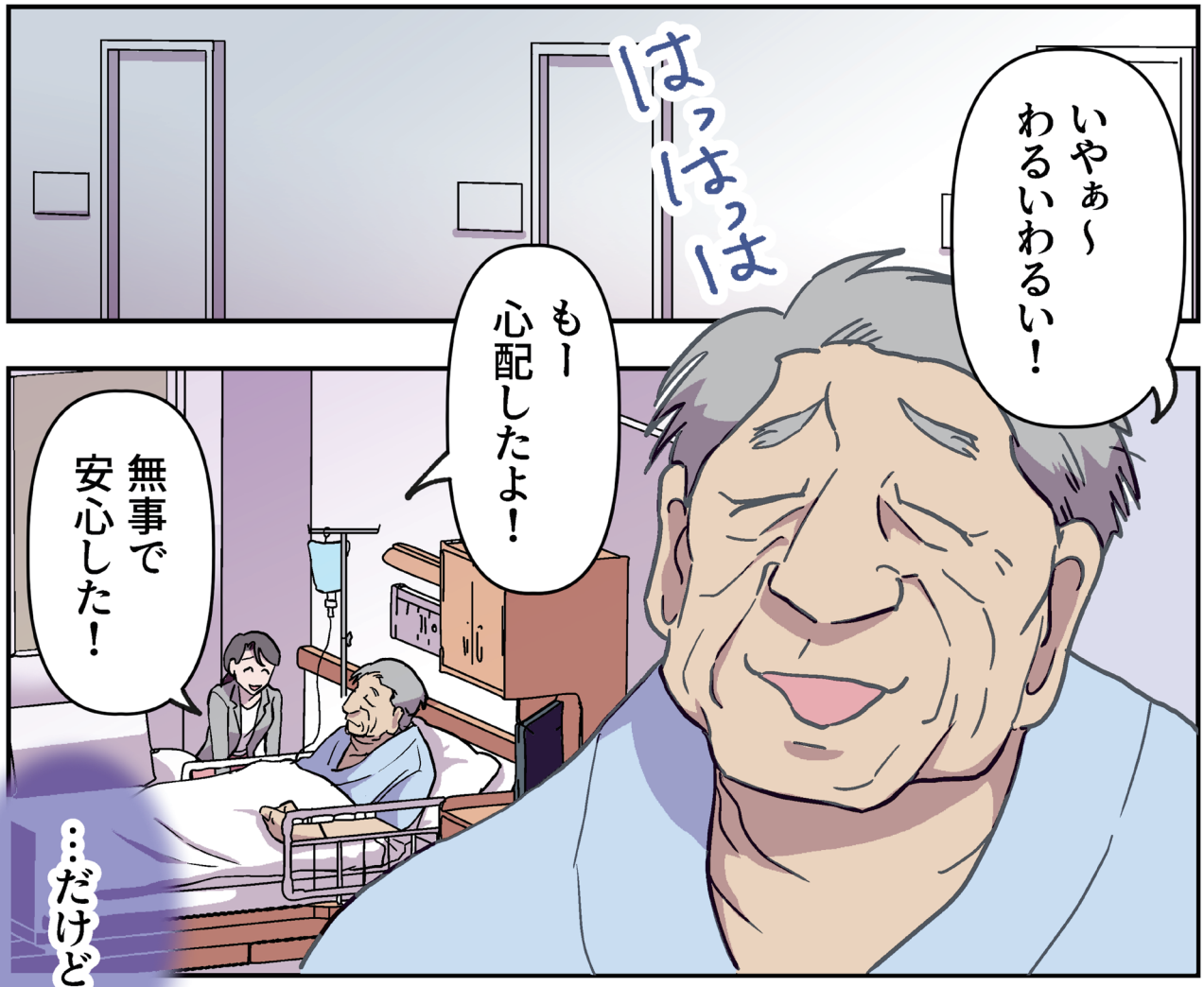
©Yamanashi Prefecture 2026
Printed in Japan



続きはWEBへ

マンガ・温泉川ワブ


命に別状はありませんよ
よかった
ホッ
でも軽い脳梗塞と右肩の骨折でしばらく入院が必要ですね
それに右側に少し麻痺が残るかもしれません
そうですか…


いやぁ～わるいわるい！
はっはっは
もー心配したよ！
無事で安心した！
…だけど

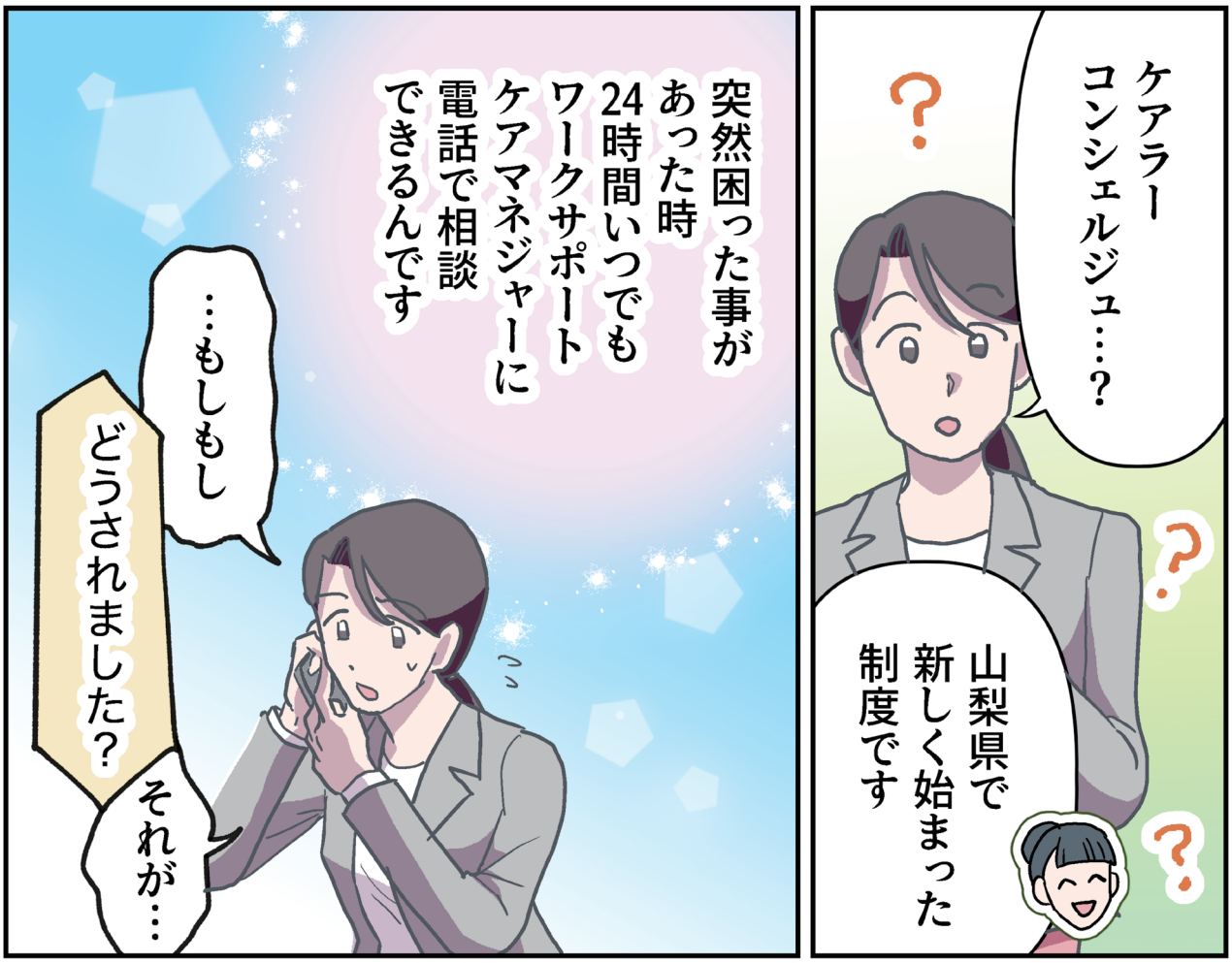

普段ならすぐ
対処できる事でも
混乱して
何もわからなく
なっちゃってた…


相談できたので
私も少し落ち着いて
きました…！
よかったです
また困ったら
お電話くださいね

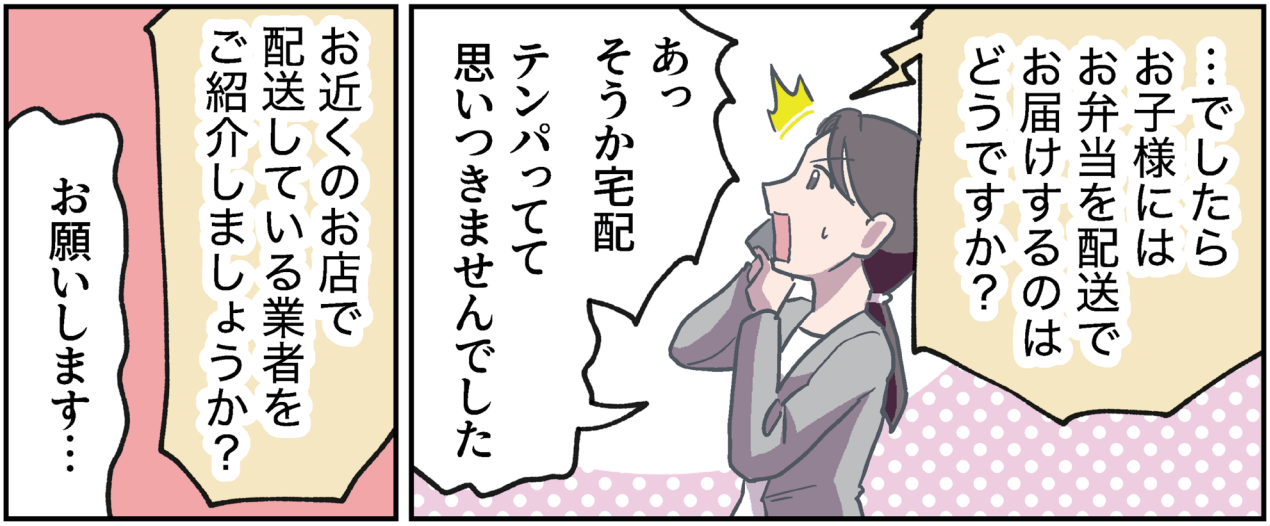

息子には
出前頼んだよ…
って


ケアラーコンシェルジュ…
助かった～
ふ！…
24時間
相談に対応して
くれるってだけでも
安心できるよ

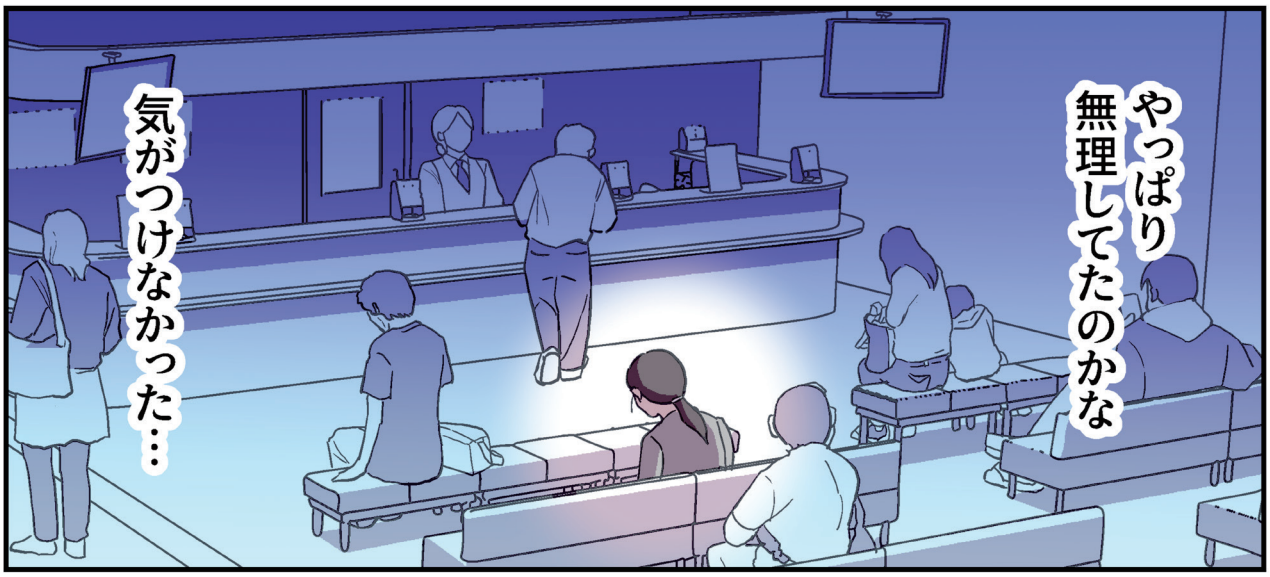

お父様ですが


ケアラー
コンシェルジュ…？
山梨県で
新しく始まった
制度です
突然困った事が
あった時
24時間いつでも
ワークサポート
ケアマネジャーに
電話で相談
できるんです
…もしもし
どうされました？
それが…


状況説明中


…でしたら
お子様には
お弁当を配送で
お届けするのは
どうですか？
あっ
そうか宅配
テンパってて
思いつきませんでした
お近くのお店で
配送している業者を
ご紹介しましょうか？
お願いします…


どうしよう
息子のご飯
お父さんの様子がわからないんじゃまだ帰れない
旦那は出張中で頼れないし…!?
付き添いの家族の方ですよね？
何か心配でも…？
あ…
父がまだ救急で治療中なのに家の事もあってどうしたらいいか自分でも混乱していて
そういう時は…
ケアラーコンシェルジュに電話してみてはどうですか？


やっぱり
無理してたのかな
気がつけなかった…


お父さん
大丈夫かな…
ボー…


ブブブ


18:43
□月□日 水曜日
まま〜おなかへった！
まま
えっ!?


嘘…
もう
こんな時間!?


お隣の山田さんが
言うには
お父さん
畑で倒れてたって…
4年前
お母さんが
天国に行ってから
ずっとひとりで
頑張ってたし
ええっ!?
お父さんが
倒れて救急車で
運ばれた!?
総合病院
ご家族は
こちらで
お待ちください
はい…

マンガで
わかる

突然ケアラーになったら…

